

地 図

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年 (調査冊数)
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東書◆	地図 303	A4 102	令和5年 (2冊)
46	帝国書院	帝国◆	地図 304	A4 132	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」(学校教育法第34条第2項に規定する教材)の発行予定があることを示しています。

「採択資料1」【都立小学校調査研究資料(内容)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 地図

発行者の番号 略 称		2 東書	46 帝国
内 容	a 問いや活動を表した吹き出しの扱い	・吹き出し等で地図の活用の手がかりを示すキャラクターを配置している。また、「日本海側の冬と太平洋側の冬とでは、どのようなちがいがあのか考えよう。」や、「この食材はどこの国から来たものか、この地図から探してみよう。」といった作業に取り組み、地図への関心や、地図を読む力が高まるように、「ホップステップマップでジャンプ」のコーナーが70問設定している。さらに、「空からまちをしてみよう」や、「地図のきまり」などを扱い、会話形式の解説や問いを設定している。	・地図を見る視点を示唆したり、活用を促したりするキャラクターを配置している。また、地図に対する興味・関心をひきつけ、地図活用技能や、知識が身に付けられるように「地図マスターへの道」のコーナーを100問設けている。自学自習で、地図活用の技能や、社会科の知識を身に付けられるように、取り組みを記録できる「地図マスターへの道にちょうせんしよう！」では、まとめのページを設けている。さらに、「地図のやくそく」「地図帳の使い方」などを扱い、会話形式の解説と、「トライ！」による問いを設定している。
	b 表やグラフの扱い	・自然、産業、貿易、自然災害などのテーマの資料図・統計を掲載している。また、「日本の自然」では、気候に関する資料地図を冬夏、それぞれの気温と降水量に分け、見比べやすいように同じ縮尺で掲載している。模式図や衛星写真、雨温図と合わせることで、日本の気候の特色を考えることができる。日本の気候の特色は、「日本の自然災害」の主題図と合わせて防災学習に使うことができる。	・自然、産業、貿易、自然災害などのテーマの資料図・統計を掲載している。また、各見開きには学習テーマに沿った地図を配置し、周りの資料や写真と関連付けて学習できるようにしている。さらに、「日本と世界の結びつき」では、「日本を訪れる外国人と外国を訪れる日本人の数」や、「日本で暮らす外国人の出身地」等のグラフと合わせることで、特色を考えることができる。
	c 日本の伝統文化に関する内容の扱い	・「日本の47都道府県」では、祭りや文学、工芸品、歴史や建造物で各都道府県からイメージされるイラストを掲載している。また、「日本の伝統文化 歴史的景観、祭り、食文化」では、世界遺産や重要伝統的建造物群保存地区、世界農業遺産・日本農業遺産を写真で示し、各地の祭りを挿絵で掲載している。日本の食文化では、「特色ある郷土料理とどうに」について掲載している。	・各地で守り伝えられてきた祭り、伝統行事、伝統的工芸品、歴史的建造物、自然などをイラストや絵記号で掲載している。また、日本の世界遺産を取り上げたページでは、写真を掲載している。さらに、地図中の歴史地名や世界遺産をそれぞれ青色と緑色の反転文字で示すとともに、日本の昔の境界とおもなできごととも歴史地名と地図帳で参照ページを示している。

「採択資料2」【小学校調査研究(内容の総括表)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 地図

項目	a 地図の基礎知識		b 地図等の種類 I			c 地図等の種類 II				d 地図の活用 (日本と世界)				e 目的別資料図						f 統計資料等			g 発展的な内容を取り上げている箇所	
	地図記号の数	地球儀取扱箇所	平面図の数	絵鳥地図の数	断面図の数	行政区分図等の数	土地利用図の数	用途別地図数	地形図の数	日本地図の数	世界地図の数	索引に掲載されている日本の地名数	索引に掲載されている世界の地名数	国土利用・自然・環境	人口・交通・貿易	農林水産業	鉱工業	防災	日本の歴史	その他(防災含む)	写真	表・グラフ		分布図
東書	198	6	98	9	2	5	16	44	44	87	22	2191	472	13	14	4	5	1	11	6	74	17	12	0
帝国	132	6	123	15	4	14	55	55	18	120	22	2158	398	15	3	4	3	10	14	3	64	27	15	0
平均値	165.0	6.0	110.5	12.0	3.0	9.5	35.5	49.5	31.0	103.5	22.0	2174.5	435.0	14.0	8.5	4.0	4.0	5.5	12.5	4.5	69.0	22.0	13.5	0.0

※ 表中の平均値は、項目ごとの各発行者の平均を小数第二位で四捨五入した値を示している。

【地図の数え方等】

- ※ 地図の総数は、東書が109、帝国が142である。
- ※ 位置を示すための小さな地図は、数に入れない。
- ※ aの地図記号については、「地図記号を使おう(東書P10)」及び「この地図帳の地図記号(東書P13)」、「いろいろな地図記号(帝国P14)」及び「記号に注目しよう(帝国P17・18)」に示されている記号の数を数えた。
- ※ cについては、1つの地図から土地利用図と地形図の両方を読み取ることができる地図がある。その場合は、土地利用図として数えた。
- ※ dの日本の地名数と世界の地名数については、索引に掲載されている数を数えた。
- ※ eについては、写真、表及びグラフは、数に入れない。

「採択資料3」【小学校調査研究(内容から抜粋)】 都立立川国際中等教育学校附属小学校 地図

発行者	東書	帝国
我が国の位置と領土の扱い	あり	あり
北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし
防災や自然災害の扱い	あり	あり
オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	なし	なし

	ア 地図帳の活用について	イ ユニバーサルデザインの視点	ウ デジタルコンテンツの扱い
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の仕組みと約束事が分かるように、地上から見たまちの様子、ななめ上から見たまちの様子、真上から見たまちの様子、真上から見たまちから地図をつくるなど、視点の変換を展開している。(P7・8) ・索引の引き方を、漫画を使って説明している。(P13) ・地図を読み取る視点や活用の仕方について、キャラクターを用いて示している。 ・地球儀の活用の仕方について、写真を用いて解説している。(P53・54) ・自然災害や防災についての情報をまとめた地図を掲載している。(P97～99) ・冒頭にイラストを示した世界地図、日本地図を掲載し、地図の世界への導入としている。 ・「世界全図と地球儀」のページで、大陸と州、海洋名の英語を記載している。(P53・54) ・世界地図では、全ての国名の英語を記載している。 ・日本の歴史を学びながら、同じ時代の世界の様子が捉えられる歴史地図を掲載している。(P77～80) ・世界のみんに「ありがとう!」では、民族衣装を着た子供のイラストとともに、世界15ヶ国の言葉のありがとうを掲載している。(P2・3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用している。 ・全ての児童の色覚特性に適應するようにデザインしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「デジタルコンテンツ」では、学びを広げるさまざまなコンテンツを利用することができることを伝え、「コンピューターは、いろいろな場面で使うことができます。使い方や、気をつけることをたしかめて、学習に生かしていきましょう。」と促している。(P6) ・「ホップステップマップでジャンプ」の解答などが二次元コードから読み取ることができる。(P4～100)
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・「地図とは何か」について、まず学校のまわりを例に、ななめ上から見た学校のまわりのようす→真上から見た学校のまわりのようす→地図で表したまちのようすへという視点の違いを踏まえて解説している。(P7～10) ・「地図とは何か」について、実際のまち(大阪府堺市)の真上からの写真と平面の地図を比べている。(P9・10) ・「3年生の学習」として、「地図のやくそく(方位)(地図記号)(きよりの求め方)」について扱っている。(P7～20) ・地図を読み取る視点や学習課題について、キャラクターを用いて示している。 ・「広く見わたす地図」として、160万分の1の日本地図を使用している。(P21～30) ・地球儀の活用の仕方について、写真を用いて解説している。(P81・82) ・災害への備えや防災について、具体的に示した地図等を掲載している。(P60・99～102) ・世界の地図ページでは主要な国名や首都名に英語を記載したり、「外国から日本へ伝わったさまざまな言葉」を示したりしている。 ・世界全図に11ヶ国語の挨拶を紹介したり(P1～3)、「集まれ!世界の子どもたち」では、紹介されている国の国旗や言語等が示されたりしている。(P84など) ・「江戸時代の結びつき(P55・56)」、「江戸(江戸時代後期)」(P69・70)、「日本の歴史」(P109・110)を掲載し、歴史的事象を地理的な空間の広がりとともに学べるようにしている。 ・「地図マスターへの道」を掲載し、地図の活用の練習ができるようにしている。(P22など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての児童の色覚特性に配慮した色づかいとなるよう工夫している。 ・ユニバーサルデザインフォントを採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語とポルトガル語の世界地図」、「日本の四季の動画」など、インターネットを活用して学習ができるページには、二次元コードが掲載されている。 ・タブレットやパソコンで二次元コードの利用を促している。(P4) ・ページの内容に合った補足データを二次元コードから読み取ることができる。(P1～130)

